

かわら版（4月号）

発行者：南消防署

新たな体制でみなみを守る

日時：令和4年4月1日（金）

内容： 令和3年4月1日に横浜市消防局へ入庁した8人の若手職員が、1年間の初任基礎教育を経て、令和4年4月1日に正式に南消防署に配属されました。

コロナ渦ということで、常に感染防止への留意しながらの教育になり、思うようにいかないこともありました。同期や先輩職員に支えられ、消防訓練センターでの基礎教育及び南消防署での実務教育を通して様々な知識・技術を身につけました。

この4月から新たな若い力として、南消防署及び大岡消防出張所にて勤務をしています。

二係

今後も引き続き訓練を重ね、成長していけるよう頑張ります！

一係

1日も早く仕事を覚え、南消防署に貢献できるよう頑張ります！



4月1日から南消防署に正規配置になった8人の職員

～3.11から11年～ 地震への備えはできていますか？

2022年3月16日（水）の23時36頃、福島県沖を震源とした最大震度6強の地震が発生し、横浜市内でも最大震度4を観測しました。

宮城県や福島県での地震ということもあり、東日本大震災を想起された方も少なくないのではないのでしょうか。2011年3月11日の東日本大震災から今年で11年が経過し、震災直後に比べて、災害の記憶が風化し、防災に対する意識の低下が懸念されています。

地震はいつ発生するかわかりません。いざという時に自分や大切な人の命守れるように、災害への備えについて、いま一度考え、できることから始めましょう。

もしも、大きな地震が発生したら…

★まずは身の安全を第一に！

慌てて外へ出ると危険です。揺れが収まるまで机の下など安全な場所で待機して下さい。また、散乱したガラスなどでけがをしないよう注意しましょう。



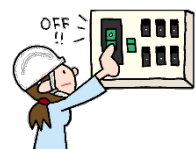
★火元の確認

揺れが収まってから、慌てずに火の始末をしましょう。



★ブレーカーをOFFに！

発災直後及び避難時は、通電することで火災が発生するの恐れがあるので、電気器具や配線の安全が確保できるまでブレーカーは下げておきましょう。



→地震の時に自動でブレーカーをOFFにしてくれる『感震ブレーカー』の設置をおすすめします。